

令和5年度 第1回富山市障害者自立支援協議会（全体会） 会議録

日 時：令和5年8月24日（木） 14：00～15：30

場 所：富山市社会福祉協議会3階大ホール

出席者：高 城 繁 委員、宮 田 徹 委員、吉 本 博 昭 委員
吉 田 勉 委員、大 西 貞 夫 委員、長 澤 正 雄 委員
西 田 弥 佳 委員、中 井 義 則 委員、土 肥 裕美子 委員
野 口 雅 司 委員、井 波 博 典 委員、前 島 靖 彦 委員
中 島 昌 未 委員、塚 原 久 永 委員

欠席者：石 田 陽 一 委員、中 田 隆 志 委員、山 村 敏 博 委員
舟 坂 雅 春 委員、稲 村 睦 子 委員、橋 本 英 徳 委員

事務局：清水 福祉保健部長、古川 こども家庭部長、片山 福祉保健部次長、
酒井 福祉保健部次長、西田 障害福祉課長、高畑 こども健康課長、
丸本 保健予防課長、恒川 障害福祉課主幹、樋口 こども健康課長代理、
田知花 障害福祉課副主幹、深山 障害福祉課副主幹、永野こども健康課副主幹
荒井障害福祉課医療係長、田村 障害福祉課自立支援係長

市委託相談支援事業所等：

自立生活支援センター富山、富山市恵光学園、セーナー苑 We ネット、
ゆりの木の里相談支援事業所、あすなろセンター、和敬会生活支援センター
富山市障害者福祉センター基幹相談支援室

議 題：

- 1 委託相談支援事業者の運営等に関することについて
- 2 基幹相談支援室の事業等について
- 3 地域の関係機関によるネットワーク構築について
- 4 障害福祉計画の進捗状況について
- 5 障害児福祉計画の進捗状況について
- 6 富山市障害福祉計画等の策定について
- 7 障害福祉の現状について

(会議資料)

- 1 富山市障害者自立支援協議会委員名簿
- 2 座席表
- 3 関係資料

議事概要：

- 1 開会
- 2 議事

委員などの発言要旨：

開 会

(会 長)

それでは議題に入らせていただきます。

今年度第1回目の富山市障害者自立支援協議会でございます。今回の会議は、議題1から議題7までの計7つの議題があります。

【議題1～議題6 質疑・意見等】

なし

【議題7 質疑・意見等】

(委 員)

身体障害者が高齢化してきている中で、障害者のサービスから介護保険サービスに移るまでの間の相談窓口などの支援が不足しているのではないかと。

また、行政の組織改革等で、これまで身近にある行政サービスセンターで可能であった手続きが、本庁でしかできなくなったものがあるが、障害により移動が困難な障害者が身近な地域でこれまでと同様の手続き等ができるように、行政環境の整備をしてもらいたい。

(事務局)

委託相談支援事業所では、年齢等の制限はなく一般相談を受け付けており、もちろん障害福祉課でも受け付けております。また、委託相談支援事業者以外においても、多くの計画相談支援事業者もあることから、それらをうまく利用して適切なサービスに繋げていけるように相談体制を整備していきたいと考えています。

また、組織の改正に係る各種手続きの窓口についてですが、少なくとも福祉の分野については、これまでと同様の手続きを行政サービスセンターでも行っていると認識しております。

(会 長)

これは障害の分野に限ったことではなく、高齢者の分野などにも当てはまると考える。行政全体として、このような意見があったことを理解してもらいたい。

(委 員)

障害手帳は持っていないくとも、生きづらさを持って生活を送っている人が多くいる。

行政でも障害手帳未所持だからといって、縦割りの対応を行うのではなく、連携して横断

的にそれらのケースに対して対応をしてもらいたい。

(事務局)

これについては、「重層的支援体制整備事業」を利用して、顔が見える形での支援を行っていきたいと考えている。

(委員)

発達障害についてであるが、資料P4において、児童の場合は多くの発達障害が見受けられるが、障害者になると発達障害の件数が極端に少なくなっている。

大人の発達障害者の受け皿はしっかりと整備されているのか。

(委託相談支援事業者)

資料に計上されている数値について、発達障害を含む重複障害であれば、他方の障害の区分に計上していることもあり、単純に障害者(大人)の発達障害が少ないということではありません。

(事務局)

発達障害のある人への支援としては、障害福祉サービス等は障害児及び障害者それぞれ対象としていますし、本市の富山市恵光学園においても支援を行っています。また、富山県発達障害者支援センターにおいても支援を行っています。

(委員)

単純な統計上の数値のことを申しているのではなく、発達障害は現在でもはっきりとした状態が分からない障害である。一般の人もそうであるが、行政においても、発達障害そのものを理解した上で支援をしているとは言えないと思う。

行政においては、もっと発達障害に関しての理解を深めて支援してもらいたい。

(専門支援ワーキング)

学齢期になって、一旦支援が終了した後、課題を抱えて生活している方への支援を行っていますが、ライフサイクルの狭間で、障害者を取り残されないようにするための支援についての検討を今後も行っていきます。

(委員)

市の事業費の増額や減額の内容について教えていただきたい。

(事務局)

増額となっている自立支援給付事業費については、障害福祉サービスに係る費用であるが、これは全国的にも同様に増額傾向にあります。また、障害児通所給付費についても同様に増加傾向にあり、こちらは自立支援給付費以上に大きな増加を見せています。

恵光学園管理運営事業費の減額については、数値上は減額しているように見えますが、会計上、執行する事業費が変更となっただけであり、事業に係る予算が減ったわけではありま

せん。

(委員)

高齢者対象のサービスにおいては、介護ヘルパー、介護タクシーや訪問入浴といったサービス事業所やその働き手が不足してきている状況であるが、障害福祉サービス事業所に関しての現状や、それに対する対策等について教えてもらいたい。

また、一般の小学校等における支援学級が増えてきているという話を聞いたが、現状を教えてください。

(事務局)

事業所の現状については、それぞれのサービスによってその状況は異なると考えていますが、特に相談支援の事業所については、非常に多くのケースを一つの事業所で抱えており、負担が大きいという声はお聞きしています。

こういった状況を踏まえ、障害福祉計画等で各サービスの見込量をたてた上で、対応策について検討していきたいと考えています。

また、相談支援事業所の負担が増加しているという点についても、相談支援ワーキング等を通じて状況を把握し、検討をしていきたいと考えています。

(事務局)

支援学級が増えてきているという点について、これは教育委員会も絡み、こちらで明確な回答は出来兼ねますが、現状として、県の統計を見ても支援学級の数は増えてきている傾向にあります。これについては、県において協議会を設けて、協議されてきていると認識しています。

親御さんは、子どもの発達に応じた支援を教育の現場に求めておられるということ現場の方からお聞きすることもあります。

(委員)

知的障害や精神障害の手帳所持の有無に関わらず、強いこだわりを持っていたり、生きづらさを抱えたまま社会で生活している人が多くいる。

これらの人について、どこかの成長段階でミスマッチな環境に身を置いてしまうことで、引きこもりや孤独になったりしてしまうことが多いのではないかと感じる。

このような生きづらさを感じている人たちが、どこかの支援機関に関わった際に、その後の適切な支援が行えるような機関に繋げることができるような環境の整備が大切であると考える。

(委員)

学齢児の場合は、学校や放課後等デイサービス等の場があるが、卒業後の支援について18歳の壁という言葉がある。卒業後、生活介護等の日中活動のサービスはあるものの、利用時間等の関係で、その親御さんが子どもの世話をしなければならず、働きに出られないといった問題があり、そのあたりの支援策がまだまだ不足している部分であると感じる。

話は変わるが、富山市においての難聴児に対する早期の支援策などは何かあるのか。

(事務局)

難聴児に対する支援策ではありませんが、新生児に対する、聴覚の検査に関する費用の助成は行っております。これは、早期発見が重要であるという考えからおこなっているところでもあります。

(委員)

障害者に対する支援に関しては、行政ばかりにいろいろと要望するだけではなく、地域力の活性化が必要であると考えます。

各ワーキングにおいても、民生委員さん等の地域への情報提供を行ったり、ネットワークづくりのための研修会を行うなど、力添えをお願いしたいと考えている。

(会長)

何かご質問などございますでしょうか。

それでは以上で本日の議題はこれで終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

閉 会